



DREAMSHADE

**“ヘヴィなフィールドで全てのジャンルの要素を取り入れて最高な音楽を創ること
それがDREAMSHADEの存在意義なんだ”
メタルコア～メロデスのベスト・ミックスと言うべき
絶妙なバランスを体現した2ndアルバムをリリース！**

昨年、“バナナマン日村が海外バンドのPVに謎の出演をすると話題に”というNAVERまとめが20万View以上とその他各種まとめ系サイトと合わせて一気にバズっていたのを目にしたネット・ユーザーも多いかもしれない。その海外バンドこそがヨーロッパのど真ん中、スイスのメロデス～メタルコア・バンド、DREAMSHADEだった。予期せぬ方法で更にその認知を広めた彼らだが、そのサウンドのクオリティは1stアルバムより日本の一部のリスナーにはしっかりと届いており、そのクオリティは非常に評価されていた。今回は日本盤もリリースされ、より広く深く知られるであろう彼らの高いサウンド・クオリティを1日でも早く聴いていただきたい。

Kevin Cali (Vo) Fernando "Fella" Di Cicco (Gt/Vo)
インタビュー：米沢 彰

—2ndアルバム『The Gift Of Life』の日本盤リリースおめでとうございます。遠く離れた日本でリリースされることが決まった時の率直な気持ちを教えてください。

Fella (以下)：俺たちのアルバムがやっと日本でリリースされることになって本当に嬉しいよ。前のアルバムも日本からは良い反応をもらっていたから、こうして正式に日本でリリースされて本当に良かったよ。これがきっかけでアジア・ツアーができる日がくれば最高なだけだね。

—あなたがたのサウンドからはアメリカや他の北欧のメタル・バンドとはまた違った雰囲気を感じられます。メンバーそれぞれの音楽的なバックグラウンドを教えてください。

F：俺たちの曲は欧米のメタル・バンドとは違うと思うよ。その理由はきっとメンバー全

員がメタル畑の人間じゃないからだと思う。平均的なメタルやハードコア・バンドにならないように、いつも新鮮で発展性のある音楽を作ることが心掛けてるんだ。パンクロック、ヒップホップ、エレクトロ、レゲエ、インディー・ロック、アンビエント等々、挙げだしたらきりがないけど、色々な音楽を聴いて俺たちは育ってきた。俺たちが目指しているのは、あくまでヘヴィなフィールドで全てのジャンルの要素を取り入れて最高な音楽をつくること。それがDREAMSHADEの存在意義なんだ。

—前作も個人的にかなり好きでしたが、今作ではよりモダンに、エモーショナルに発展を遂げていて、より広く受け入れられそうだな、と感じました。今作の制作にあたって意識したことや表現したかったことを教えてください。

F：俺たちの音楽はずっとエモーショナルでメロディアスにできたつもりさ。それが俺たちのスタイルだからね。でもあなたが言う通り、『The Gift Of Life』のメロディからバンドの新たなエッセンスを感じることができるようし、歌詞もパーソナルな内容だから必然的に感情もこもっている。俺たちは自分たちが人生で経験してきた良いことも

俺たちの感情をみんなと共有して、世界には自分と同じように感じている人が他にもいるということを共感したくて俺たちは曲を書いている

悪いこともみんなと共感したいんだ。歌でみんなに何かを教えたいとか、伝えたいというよりは、俺たちの感情をみんなと共有して、世界には自分と同じように感じている人が他にもいるということを共感したくて俺たちは曲を書いている。俺たちは音楽に対して常に誠実で正直でいたんだ。

—今作もギター・リフが素晴らしい、“もっと多くの曲を聴きたい！”と率直に思いました。エモーショナルな部分とザクザクしたリフとが上手いバランスで絡み合い、絶妙なサウンド・ポジションがリスナーを惹きつける魅力の源泉のように感じましたが、リフのアイデアやメロディ、曲の構成などはどのようにして作り上げているのでしょうか？

F：それは自分でも上手く説明できないんだ(笑)。DREAMSHADE独自の作曲方法なんだと思う。1つ言えるのは、俺たちは“世界一のブルータルなバンド”になりたいけども思わないし、“最もヘヴィなリフ”を書くことと思ったことは無い、それに誰かの真似をしようとか、既存のシーンに属したいとも思わない。そんなことはどうでもいいんだ。単純に自分たちのつくる音楽が好きでやってるだけさ。それがDREAMSHADEと他の今の若いバンドとの大きな違いだと思うよ。

—今作にも収録されている「Consumed Future」のミュージック・ビデオで「日本のメディアが映ってる!？」とネット上でかなりの話題になりました。そのことはご存知ですか？

Kevin(以下K)：それが俺たちも最初は全然知らなかったんだ(笑)。びっくりしたけど、「日村サン」がPVの中に映っていたことはとっても光栄なことさ。彼が素晴らしい人間で、たくさんの人に愛されているキャラクターだということを読んで知り、俺たちはとても嬉しかったよ。

—あのミュージック・ビデオは偶然だったのでしょうか？

K：狙ってはいなかったよ。数ヶ月前からYouTubeで俺たちの動画に日本語でコメントが増え始めたんだ。俺たちはもちろん何が書かれているか分かる訳もなく、不思議に思っていた。あまりにもコメントが増えるから翻訳してみたら「ビデオに日村さんが出ている」ということがたくさん書かれていて、ようやくこの発端を知った。そして更に調べたら彼が有名な芸人だと知ったんだ。彼には感謝の気持ちでいっぱいさ。

—今作ではプロデューサーにVOLBEAT、HEAVEN SHALL BURN、MAROONなどのプロデューサーで知られるJacob Hansenを起用したそうですが、彼を選んだ理由を教えてください。

K：第1に俺たちはJacob Hansenの大ファンだったということ。彼の手がけたアルバムは全部とても好きなアルバムだったんだ。彼に仕事を依頼したのはそれが理由だよ。それに彼も俺たちのことに興味をもってくれた。彼は素晴らしい仕事してくれたし、俺たちの曲を更に良くする為にとても良い仕事をしてくれたんだ。

—Jacob Hansenとの制作はいかがでしたか？

K：彼と仕事できたのは最高の経験だったよ。素晴らしい人間だし、プロでとても頼りがいもあって、一緒に素晴らしい時間を過ごすことができた。『The Gift Of Life』が更にハイ・レベルな作品になったのは彼のおかげだよ。また将来一緒に仕事をしたいと心から思うよ。

—前作からヴォーカリストが交代となったとのことですが、どういった経緯で交代となったのでしょうか？

K：過去数年の間に本当にいろいろなことがあったよ。何人かのメンバーはバンドとは別のライフスタイルを望みバンドを去っていった。今のラインナップはバンドに新しい可能性を生んだと同時にバンドとして以前より格段に成熟したといえるだろう。『The Gift Of Life』は前作とは全然違う制作プロセスの中でできたアルバムなんだ。Fellaも言っていたとおり、俺たちはジャンルに拘らず色々な音楽をバックグラウンドに持っている。その多面性をこのアルバムで表現しようと努力した。この柔軟性が俺たちの強みだと思うよ。俺たちに窮屈なルールはいらないし、斬新なことを発展性をもって取り組んでいくことが俺たちにとってベストだと思うからね。

—本国や海外では既にリリースされている作品ですが、各地での反応はいかがですか？

K：このアルバムに対して、みんなから本当に良い反応をもらっているよ。こういう結果が出るような作品を集中して作ることができる環境と仲間が集まったことに本当に感謝している。ファンはアクションや新しく増えたファンにも感謝している。いい結果を出すこともできたから、これからはこのやり方で頑張っていきたいと思っているんだ。

ファンのみんなに喜んでもらえるクオリティを保つことが一番大切だからね。

—5月にはアメリカ・ツアーも経験されたとのことでしたが、ツアーはいかがでしたか？どういった都市や会場を回りましたか？

K：アメリカ・ツアーは最高だったよ。もちろん海外に俺たちの音楽を持っていくことができたということもあるんだけど、ロス由緒あるライブハウス「Whisky A Go Go」やオークランドの「Metro Operahouse」でライブができたことが嬉しかったな。最初はどんなツアーになるのか想像もつかなかったし、何を期待していたのかも分らなかった。いざこの2週間のツアーが始まったらずっと興奮していたよ。俺たちのライブを観に来てくれたみんなの顔は一生忘れないよ。彼らは俺たちを暖かく迎えてくれて、一緒に最高の時間を過ごしてくれたからね。

—日本盤のボーナス・トラックとしてCRYSTAL LAKEのRyo (Vo)がゲスト参加した「Sandcastles (feat. Ryo from CRYSTAL LAKE)」が収録されますが、国を超えた試みを形にした感想はいかがですか？大変なところなどありましたか？

K：Ryoを「Sandcastle」でゲストに迎えたのは大正解だったよ。俺は彼の声が大好きなんだ。彼のテンションと怒りに満ちたスクリームは俺が想像していた通りにはなかったしね。一緒に作業するのは何の苦勞も無かったよ。俺がどこを歌って欲しいかRyoに伝えて、そこを歌ってもらったんだけど、すぐに完璧に理解してくれたよ。すごく良いもののできたから絶対チェックしてくれ！

—CRYSTAL LAKEのことはご存知でしたか？

F：もちろんだよ。今日日本で1番かっこいいハードコア・バンドだと思う。やっとゲストに迎えることができて本当に嬉しいよ。早くたくさんの人に聴いてもらいたいよ。

—スイス出身のメタル・バンドというELUVEITIE、CELTIC FROSTらが挙げられますが、他にはここ日本まで知られているバンドはあまり思いつきません。地元のシーンは活発ですか？

K：スイスの音楽シーンは進化の過程にある。モチベーションもありスキルの高い若いバンドがたくさんいるのは喜ばしいことさ。最近バージョンと一緒にライブしたバンドはほとんどみんな素晴らしいけど、でも数年前は全然違ったよ。ずっと国内での環境が整ってきたということが大きいんだと思う。今度は海外で活躍するバンドもスイスからたくさん出て行くはずさ。

—今年、アメリカ・ツアーも敢行されていますが、FとFとしてはこれからインターナショナルに活動を広げていこうとしているのでしょうか？

F：もちろんさ！実際既にそういう活動をしているつもりだよ。俺たちのことを好きになってくれる可能性がある人のいる場所にはどこでも行くということが目標なんだ。どれだけ速くても関係ない。新しく出会う人たちの前でライブをすることができるのは本当に幸せなことだからね。近いうちに日本でライブができると嬉しいよ。もし俺たちのことを気に入ってくれたなら、日本でツアーができるように友だちに広めてくれたら嬉しいな。

—今後の予定や目標など決まっているものがありましたら教えてください。

K：近中に色々ニュースは解禁されるよ。俺たちのFacebookのアカウントで俺たちの最新情報をチェックして。バンドとしては新しいアルバムを作る為に曲をたくさん書いているよ。

—日本のメタル・ファンたちにメッセージをお願いします。

K：読んでくれたみんなありがとう。日本で『The Gift Of Life』がリリースされるから是非チェックしてね。1日でも早く日本に行ってみんなとパーティーしたい！ライブでみんなに会えるのを楽しみにしているよ！



DREAMSHADE
THE GIFT OF LIFE
NOW ON SALE!

LABEL: ZESTONE RECORDS
GENRE: MELODIC DEATH METAL
FEAT. FANS OF: SLOWWORK, IN FLAMES, KILLSWITCH ENGAGE, KILLED THE PROM QUEEN

「バナナマン日村が海外バンドのPVに謎の出演を」という話題で一時バズった、DREAMSHADEの2ndアルバムがここ日本でも遂にリリース!プロデューサーにJacob Hansenを迎えて制作された今作はメロデス〜メタル・メタルコアのいいとこ取りで、幅広いメタラーに受け入れられる作品にも仕上がっている。リフやメロスの良さ、心強い盛り上がり、ハード・サウンド、エモーショナルなサウンドの展開は、聴き手を導き込む導線を織いながらも、尋ねる感情性を提示している。スイス出身ゆえか、サウンドの空気をには独特のものがあり、美しいデタラック・アレンジメントを得意とするメンバー・サウンドの良さを何回も聴いていこうとにより深くハマっていく中毒性すら持っている。ギター・ソリッドしたメタラーたちにはぜひとも日村のイメージを捨てて一聴していただきたい。 米沢 彰